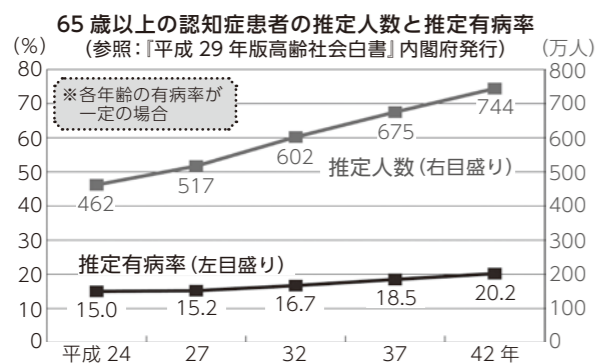




高齢者役のスタッフに声をかける地域の人々 (徘徊模擬訓練)



身近になる認知症

認知症は、誰もがなりうる病気です。特に高齢化が進んでいく今後は、認知症になる人が増えていくと考えられています。

『平成29年版高齢社会白書』によると、65歳以上の高齢者について、平成28年の認知症の人数は462万人、全体の約7人に1人でした。37年には約5人に1人が認知症になるとの推計もあります。

認知症は今後、さらに身近なものになってきます。今、認知症について正しい

発見・声かけ・通報を訓練

市では、認知症に対する理解を市民の皆さんに深めてもらうとともに、認知症の方やそのご家族を地域で支援するため、さまざまな取り組みを行っています。

その一つとして、昨年10月26日、市は船引町の栄町行政区をモデルとして、「認知症高齢者徘徊模擬訓練」を行いました。高齢者に扮したスタッフが訓練区域内を徘徊。見かけた地域の方は、驚かせないように声をかけ、訓練本部に通報しました。この「発見」「声かけ」「通報」を一連の流れで学んだのです。

い知識を身に付けるとともに、温かく見守り、地域で支えていくことが求められています。

では、私たちは、認知症について知っていると断言できるでしょうか。ご家族や親しい人が認知症になった経験のある人ならともかく、認知症について真剣に考えたことがない人も多いのではないのでしょうか。

知って考えることから

昨年12月9日には認知症セミナーが市役所で開かれ、参加者75人が専門医の話や寸劇で認知症について学びました。



寸劇で認知症を学ぶ(認知症セミナー)

誰もが安心して暮らせるまちづくりのため、まずは認知症について考えてみませんか？

認知症サポーターを示すオレンジリング



常葉中学校

1年生と3年生は裏磐梯で野外学習を行いました。ガイドの方の案内でレンゲ沼から中瀬沼まで散策し、沼の近くに生息する植物について学ぶことができました。

市では、東日本大震災や原発事故で変わった学習環境に対応するため、特色ある教育活動を支援する「田村っ子の元気を支援する事業」を進めています。

今回は、29年度に行った市内7中学校の取り組みの一部を紹介します。



船引南中学校

全校生で喜多方市内へ。北方風土館で日本酒の作り方を見学した後、木之本漆器店では蒔絵の絵付けを体験。世界にひとつだけの漆器を作りました。



滝根中学校

全校生で茨城県の笠間焼き陶芸体験をしました。今回の体験を通して、ものを創造する楽しさや、無から形あるものへと変化させる魅力を実感することができました。



船引中学校

学年ごとに裏磐梯に行き、森林環境の違いについて、自然に親しみながら学びました。生徒たちは、田村市とは異なる樹木の植生の違いを実感していました。



大越中学校

全校生で、午前中は五色沼周辺でのトレッキング、午後は「国立磐梯青少年交流の家」で野外炊飯を行いました。自然の美しさややすばらしさを肌で感じることができました。



移中学校

全校生でいわき市へ。アクアマリンふくしまでバックヤードツアーを行いました。また、釣り体験で釣った魚を調理、食べることで、自然の恵みに感謝することができました。



都路中学校

今年は「食」がテーマ。郡山ビューホテルアネックスでは、全校生でテーブルマナー体験を行いました。田村市で作られた食材を使った料理を、緊張しながらも楽しく食しました。

さらに成長！ 田村の子どもたち